

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社あおぞら銀行（証券コード:8304）

【見通し変更】

長期発行体格付
格付の見通し

A
ネガティブ → 安定的

■ 格付事由

- (1) ストラクチャードファイナンス（SF）における高い専門性などに強みを持つ銀行。資本充実度や収益力が低下し、回復に時間を要する可能性があるとの見方の下、格付の見通しを「ネガティブ」としていた。しかし、資本充実度は JCR の想定以上に改善し、収益力回復の蓋然性も高まっていると JCR は考えている。これらを踏まえ、格付を据え置き、見通しを「安定的」に変更した。なお、当行は 24 年 7 月の第三者割当増資により大和証券グループ本社の持分法適用関連会社となったが、大和証券グループの戦略における当行の位置づけや経営の独立性を踏まえ、格付には大和証券グループの信用力を加味していない。
- (2) 基礎的な収益力は回復しつつある。25/3 期の連結実質業務純益は 250 億円と、市場部門の損益悪化を主因とする 24/3 期の赤字から黒字に転換した。国債等債券損益の改善に加えて、国内の対顧客ビジネスの堅調な推移、国内金利の上昇などが寄与している。今後は、LBO ファイナンスにかかる収益増加や GMO あおぞらネット銀行の業績改善、大和証券グループとの連携の成果などが見込まれる。収益性の高い海外資産から国内資産へウェイトを移す方針であることなどを踏まえると、以前のように邦銀の中で優位性のある水準まで収益力が改善するには時間を要する可能性があるが、当面は回復傾向を辿ると JCR はみている。
- (3) 当行の貸出資産は SF や海外貸出のウェイトが高く、外部環境変化の影響を比較的受けやすい。24/3 期に多額の与信費用を計上した米国オフィス向け貸出については不良債権の処理が進捗しており、追加損失のリスクは後退していると JCR は考えている。今後は国内の貸出残高を増加させる方針だが、LBO ファイナンスなど相対的に高リスクの貸出も含むため、資産の質が保たれるか注目していく。
- (4) 有価証券運用では、外国債券へ積極的に投資してきた経緯から海外金利上昇の影響を強く受けている。その他有価証券の評価損は一時期よりも縮小しているが、25 年 3 月末においてコア資本の約 1 割に相当し、財務面の余裕度を一定程度下押ししている。一方、大規模なヘッジや一部有価証券の売却などを通じリスク量は削減されており、かつ今後は従前よりも保守的に運用を行う方針である。評価損が拡大するリスクは抑制されていると JCR はみている。
- (5) 資本充実度は A レンジに見合う。当期純損失の計上や有価証券の評価損などにより、24 年 3 月末の調整後連結コア資本比率（その他有価証券の評価損などを調整後）は 7% 台前半に低下したが、その後の増資やリスクアセットの減少などにより 25 年 3 月末では 8% 台後半に回復した。今後は貸出残高の増加に伴うリスクアセットの拡大が見込まれるが、内部留保の蓄積などにより一定の資本水準は保たれると JCR は考えている。資金流動性に特段の懸念はない。外貨建て資産の規模が大きいが、調達の実態や管理態勢に問題はみられない。

（担当）大石 剛・古賀 一平

■格付対象

発行体：株式会社あおぞら銀行

【見通し変更】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2025年6月4日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：大石 剛
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024年10月1日）、「銀行等」（2021年10月1日）として掲載している。
- 格付関係者：
（発行体・債務者等） 株式会社あおぞら銀行
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
 - 格付関係者が提供した監査済財務諸表
 - 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル